

ドキュメンタリー映画で学ぶ
社会課題と惑星思考 vol.10

『それでも僕は帰る』
(監督: タラール・デルキ、2013年)



Dialogue 



今回の Cafe master



山森裕毅
CO デザインセンター 特任講師

program

18:10 - 導入
18:20 - 上映 (約 90 分)
休憩
20:00 - 対話

2018 10/25 日 18:10~21:00

豊中キャンパス全学教育総合棟 13 階 341 号室 (CO デザインスタジオ)

申し込み不要、入退場自由、飲食可 / 問い合わせ: yamamori@cscd.osaka-u.ac.jp

【カフェマスターからのメッセージ】

私たちは自分たちが被る苦しみを自分のせいにして、特定の誰かのせいにしてきた考え方に慣れていますが、しかし私たちが被る苦しみのなかには、自分のせいでも誰かのせいでもなく、社会の構造や変化、歴史的経緯に由来するものもあります。たとえば貧困や民族問題、さまざまな種類の差別の問題などがそれです。そうした社会から被ることになる苦しみは Social suffering と呼ばれます (参照: アーサー・クラインマン他、『他者の苦しみへの責任』、みすず書房)。この企画では4本のドキュメンタリー作品を取り上げて、ソーシャル・サファリングの観点を学びたいと思います。自分や誰かに苦しみの責任を背負わせてしまう癖のついてしまった頭をほぐし、自分たちと社会のつながりを見つめ直す機会になれば幸いです。

【今回の内容について】

今回取り上げる作品は、独裁政権から民主化を勝ち取ろうと立ち上がった人びとが、シリア内戦といわれる泥沼の戦闘状態にどのように至るのかを描いています。作品はひとりの若者に焦点を当てて進みます。街が廃墟と化するほどの戦闘状態のなかで苦悩し、葛藤し、そして親しい人々を失っていく彼の姿を通して、社会とは何かを考えたいと思います。

DESIGN
CAFÉ



* CENTER FOR THE STUDY OF
CO* DESIGN
大阪大学 CO デザインセンター

映像作品 (主にドキュメンタリー) を通して社会課題を惑星規模で捉えてみようという実験的な試みです。社会課題とは何かを知りたい方、惑星思考を身につけたい方、ドキュメンタリーや映画に関心のある方はぜひ参加してください。